

中 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究の概要	1
1	研究主題決定の理由	1
2	研究の視点	1
3	研究の仮説	1
4	研究構想図	2
II	研究の内容	3
1	基礎研究	3
2	開発研究	4
(1)	日本及び諸外国の音楽を教材とした教材分析表	4
(2)	実践事例①	7
	第1学年「フィリピンと日本の竹を使った楽器の音色や音楽のリズムの特徴を感じ取り、よさを味わおう」	
	実践事例②	13
	第2学年「ウェールズの音楽の旋律やリズムの特徴を感じ取り、リコーダーアンサンブルの響きの美しさを味わおう」	
	実践事例③	18
	第3学年「謡の体験を通して我が国の伝統的な歌唱の特徴を感じ取り、能のよさを味わおう」	
III	研究の成果と課題	24

研究主題

「音楽に対する感性を豊かにするための指導の工夫」

～我が国及び諸外国の様々な音楽の学習活動を通して～

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

学習指導要領の音楽科の改訂の趣旨では、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育むために、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視している。生徒一人一人が音や音楽のよさや美しさを深く味わうために、教師は生徒が学習のねらいを理解し、学習活動に見通しをもち、目標の達成に向けて主体的に学習に取り組むための指導の工夫が求められる。また、音楽科の目標では、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽に対する感性を豊かにすることが求められている。生徒が表現及び鑑賞の幅広い活動をするために、教師は我が国及び諸外国の様々な音楽のよさや特質を分析し、指導を工夫することが大切である。とりわけ、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を深め、音楽文化に愛着をもち、他国の音楽文化を尊重する態度を養うことは、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成することにもつながる。

以上のことから、本部会では、生徒の音楽に対する感性を豊かにするために、教師が生徒に自ら音や音楽に興味・関心をもたせ、主体的に歌唱・器楽、創作、鑑賞の活動をさせるための教材提示、発問等の指導を工夫することが大切であると考えた。一方、我が国及び諸外国の伝統的な音楽の指導について、教材研究や指導方法に課題意識をもっていった。そのため、我が国及び諸外国の伝統的な音楽の特徴を分析し、生徒に音楽のよさや特質から、音楽の多様性を感じ取らせるための教材選択や指導方法等の追究が必要であると考えた。

そこで、研究主題を「音楽に対する感性を豊かにするための指導の工夫～我が国及び諸外国の様々な音楽の学習活動を通して～」と設定し、我が国及び諸外国の様々な音楽の学習活動を通して、生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わい、主体的に音楽を捉え、音楽に対する感性を豊かにするための指導の在り方について研究を行った。

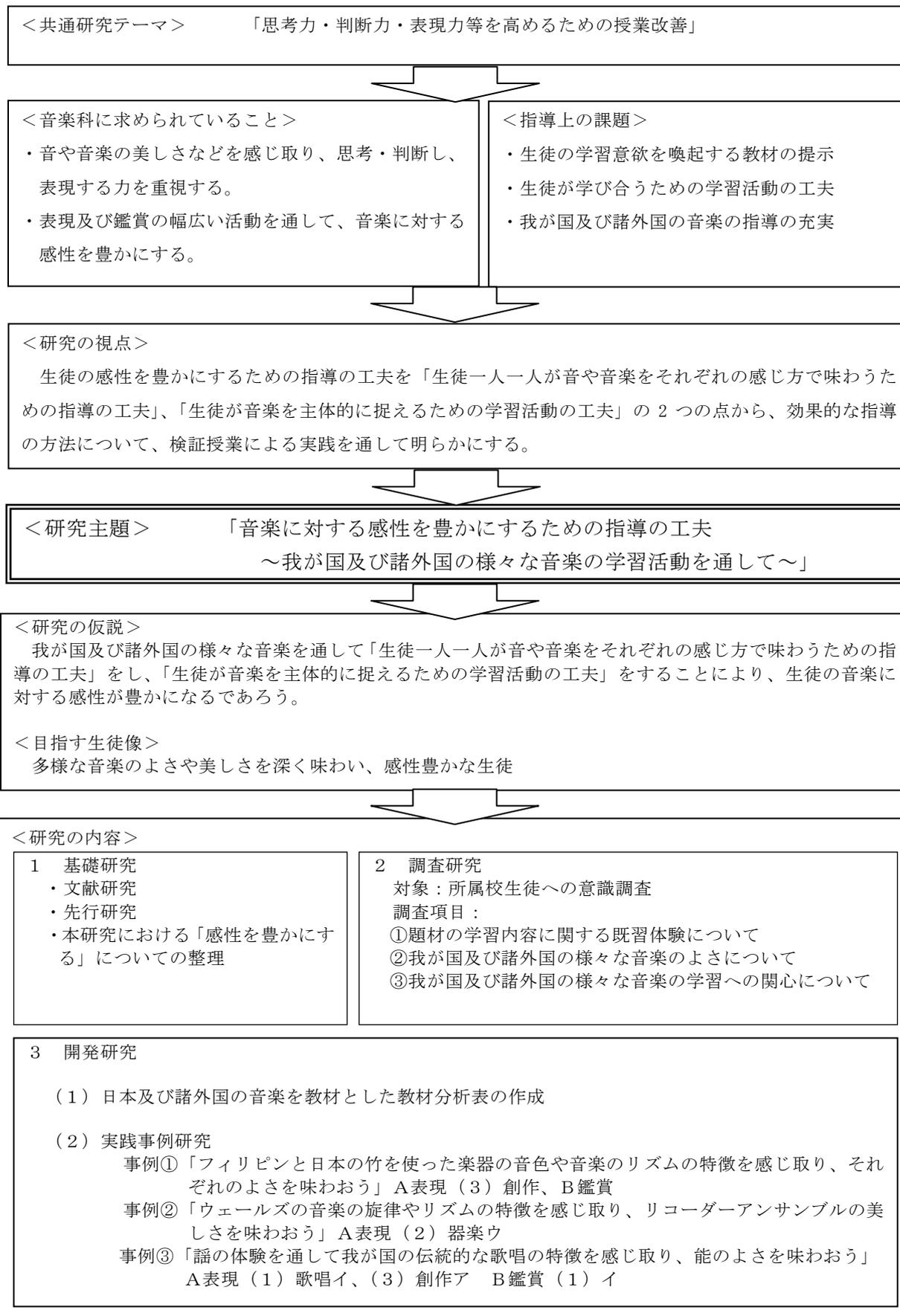
2 研究の視点

生徒の感性を豊かにするための指導の工夫について、「生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わう指導の工夫」、「生徒が主体的に音楽を捉えるための学習活動の工夫」の2点から、効果的な指導の方法について、検証授業による実践を通して明らかにする。

3 研究の仮説

我が国及び諸外国の様々な音楽を通して「生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わう指導の工夫」をし、「生徒が主体的に音楽を捉えるための学習活動の工夫」をすることにより、生徒の音楽に対する感性が豊かになるであろう。

4 研究構想図



Ⅱ 研究の内容

1 基礎研究

本部会では研究主題である「音楽に対する感性を豊かにする」ことについて、「中学校学習指導要領解説音楽編」を踏まえ、次のように定義付けた。

＜「音楽に対する感性」についての捉え方＞

中学校学習指導要領解説 音楽編によると、「音楽に対する感性」とは、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る時の心の働きを意味している。

音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るためには、まず初めに、音や音楽の存在に気づき、音楽と向き合い、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することが重要である。

次に、感じ取ったことを基に、表現に対する思いや意図をもち、思考・判断・表現し、表現の技能の獲得や、音楽について批評する活動を積み重ねることが必要である。

それらを通して、音や音楽に対する心の中の意味付けを確かなものにしていき、一人一人がそれぞれの感じ方で音楽を味わうことができるようになることを考える。

以上のことから、本部会では、「音楽に対する感性を豊かにする」ということを、以下のように定義付けた。

「音楽に対する感性を豊かにする」とは

音楽の構造、音楽の特質及び雰囲気を知覚・感受し、思考・判断・表現する一連の過程を積み重ねることにより、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして、それぞれの感じ方で味わうことができるようになること。

2 開発研究

研究の視点に基づき、音楽に対する感性を豊かにするための指導の工夫として、以下の研究開発を行った。

(1) 日本及び諸外国の音楽を教材とした教材分析表

日本及び諸外国の音楽を教材とした指導を行う際の、学習指導要領との関連に基づき、学習内容や指導する知識と技能等について整理し、分析表にまとめた。

分析表の内容

- ・学習指導要領の指導事項との関連
- ・時間数
- ・本題材で学習する〔共通事項〕
- ・主な学習活動
- ・指導する知識と技能
- ・評価の視点

(2) 実践事例研究

研究の視点を実現するために、実践授業を行う際、以下の内容を充実させることが大切であると考え、検証授業を行った。

視点（1）生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫

- ・教材提示の工夫
- ・比較聴取をさせる楽曲選択とその方法

視点（2）生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫

- ・学び合い活動の設定
- ・主体的な学びにつながる教師の発問や働き掛け

(1) 我が国及び諸外国の音楽を教材とした教材分析表

<p>【題材名】 フィリピンと日本の竹を使った楽器の音色や音楽のリズムの特徴を感じ取り、それぞれのよさを味わおう</p> <p>【題材の目標】</p> <p>(1) トガトンの音色に関心をもち、音楽のリズムや反復、対照などの構成が生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、主体的に鑑賞したり、創作したりする。</p> <p>(2) トガトンの音色や音楽のリズムの特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽で表現したいイメージをもち、竹素材の音色や奏法の特徴を感じ取って反復、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p> <p>(3) 竹素材の特徴を生かしたリズムアンサンブルをつくるために必要な技能を身に付けて音楽をつくる。</p> <p>(4) トガトンやささらに関心をもち、音色やリズムの特徴を知覚・感受しながら、フィリピンと日本の竹を使った楽器や音楽の多様性を感じ取って鑑賞する。</p>					
<p>【教材】 「トガトン」による演奏（フィリピン カリンガ族） 「ささら舞」（島根県 旧平田市多久町）</p>		<p>【時数】 4時間</p>			
<p>本題材で学習する〔共通事項〕</p>					
ア	A表現（3）創作		ア	B鑑賞	
	音色	トガトン		音色	トガトン、びんざさら・すりざさら
	リズム			リズム	
	構成	反復・対照	構成	反復	
<p>【学習指導要領の指導事項との関連】 A表現（3）創作イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。</p>		<p>【学習指導要領の指導事項との関連】 B鑑賞（1）ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び、アジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。</p>			
<p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> トガトンの音色の響きや、音楽のリズムの特徴を感じ取る。反復、対照の音楽のしくみを理解し、即興的に表現する。（第1時） トガトンの音色の響きや特徴を感じ取る。 表現したいイメージをもち、リズムアンサンブルを創作する見通しをもつ。（第2時） 音色やリズムの特徴を生かしながら構成を工夫して創作する。 リズムアンサンブルを聴き合う。（第3時） 		<p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> トガトンの音色の響きや、音楽のリズムの特徴に関心をもち鑑賞する。（第1時） ささらの音色の響きや音楽のリズムの特徴を感じ取り、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。 ささらとトガトンそれぞれの楽器の音色や音楽のリズムの特徴の共通点や相違点から、音楽の多様性やよさを捉える。（第4時） 			
<p>【指導する知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> トガトンの音色や奏法の特徴：竹の筒の柔らかい響き 奏法の特徴：竹の筒を石に軽く落として鳴らす リズムの特徴：「トン・トン・トントン・トン」 創作に生かすイメージ：海に囲まれている多くの島からなる国、気候など 構成の工夫（反復・対照）：始め方・終わり方の工夫 創作の仕方：①イメージを考える②構成を考える③パートの分担 		<p>【指導する知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ささら：「すりざさら」と「びんざさら」がある。田楽や獅子舞などの民俗芸能に用いられる体鳴楽器。 ささら舞：旧平田市多久町で行われた田楽。 由来：昔、近江から船に乗って当地へ移住してきた人がいた。その時の船旅の苦難をしたので「ささら舞」が始まったと言われている。 楽器：腰に着ける鼓、びんざさら、すりざさらで、大波・小波の舞などを行う。 			
<p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> トガトンの音色やリズムの特徴、反復や対照について感じ取ったことを、それぞれ自分の言葉でワークシートに記述しているか。（関・ワークシート） 表現したいイメージを班で伝え合い、創作活動の手順を確認し、どのように音楽を創るかについて、トガトンの音色を工夫し、リズムを試行錯誤しながらつくっているか。（創・観察） トガトンの音色の響きを生かした奏法でリズムの特徴を生かし、反復や対照を入れながら、音楽を表現している。（技・演奏） 		<p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> トガトンの音色やリズムの特徴、反復や対照について感じ取ったことを、それぞれ自分の言葉でワークシートに記述しているか。（関・ワークシート） ささらとトガトンの楽器の音色の特徴と、音楽のリズムの特徴や雰囲気を、ワークシートに記述している。また、2つの楽器や音楽の特徴の共通点や相違点を記述しているか。（技・ワークシート） 			

<p>【題材名】 「ウェールズの音楽の旋律やリズムの特徴を感じ取り、リコーダーアンサンブルの響きの美しさを味わおう」</p>		
<p>【題材の目標】</p> <p>(1) リコーダーの音色の響きやウェールズ民謡のリズムや旋律の特徴、音の重なりに関心をもち、音楽にふさわしい音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組む。</p> <p>(2) リズムや旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら様々なリコーダーの音色や曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。</p> <p>(3) 音楽表現をするために必要なアーティキュレーションを身に付けて演奏する。</p>		
<p>【教材】 「木かげの思い出」(ウェールズ民謡) 映画「ハリーポッターと賢者の石」より 「ヘドウィグのテーマ」</p>	<p>【時数】 4時間</p>	
<p>本題材で学習する〔共通事項〕</p>		
<p>ア</p>	<p>音色</p>	<p>アルトリコーダー、テナーリコーダー、ソプラノリコーダーの音色</p>
	<p>リズム</p>	<p>3/4拍子、アウフタクトで始まる</p>
	<p>旋律</p>	<p>跳躍進行が少ない</p>
	<p>テクスチュア</p>	<p>3種類のリコーダーの音色の特徴を生かした音や旋律の重なり</p>
<p>イ</p>	<p>アーティキュレーション</p>	<p>リコーダーの奏法</p>
<p>【学習指導要領の指導事項との関連】</p> <p style="text-align: center;">A表現(2) 器楽ウ</p> <p>声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。</p>		
<p>【主な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの種類による音色の違いを理解し、アルトリコーダーの運指を確認する。 ・「木かげの思い出」の旋律の特徴を感じ取る。(第1時) ・旋律の重なりや響きの美しさを感じ取り、旋律の特徴を理解する。 ・パートの分担をして、それぞれのパートの演奏ができるようにする。(第2時) ・アーティキュレーションについて理解する。 ・各グループでアーティキュレーションを工夫して演奏する。(第3時) ・グループ相互に演奏し、リコーダーを聴き合う。 ・良かったところ、工夫されていたところを発表し合い、価値付ける。(第4時) 		
<p>【指導する知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノ、アルト、テノールリコーダーの種類と響きや音高の特徴、運指 ・3部の響きと、各パートの特徴と役割 ・ウェールズ民謡(イギリスの民謡)の特徴について ※3拍子、アウフタクト、音程の跳躍進行が少ない、四分音符と八分音符が中心でできている曲 ・アーティキュレーション(ノンレガート、レガート、ポルタート、スラー)奏法 ・音の重なりや響きのバランスとアンサンブルの関係 		
<p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う場面において、リコーダーの音色の特徴や、ウェールズ民謡の旋律やリズムの特徴について自ら発言したり、他者の発言を聞き、それに対して反応をしたりしているか。(関・観察) ・リコーダーの演奏をする際、聴いたり楽譜を見たりしながら演奏し、ペア学習で音階やリズム、運指を確認しながら演奏しているか。(関・観察) ・音の重なりやよさを感じ取り、学習したキーワードをもとに、音色や旋律の特徴や響きの美しさをワークシートに記述し、自分なりに思いや意図を記入しているか。(創①・ワークシート) ・曲にふさわしい呼吸法、姿勢等の身体の使い方、読譜の仕方などを工夫し、演奏に生かしているか。(創①・観察) ・曲にふさわしいアーティキュレーションを工夫するために意見交換しながら演奏に生かしているか。(創②・観察) ・正しい音階やリズム、運指、曲にふさわしい息のスピードや量等で音色を響かせて演奏しているか。(技・演奏) 		

【題材名】謡の体験を通して我が国の伝統的な歌唱の特徴を感じ取り、能のよさを味わおう					
【題材の目標】					
<p>(1) 能の背景となる文化・歴史、我が国の伝統音楽の特徴を理解し、謡の音色や速度、リズム、節に関心をもち、主体的に鑑賞、謡い、創作する。</p> <p>(2) 謡の音色やリズム、節、速度、節の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら謡の特徴を感じ取り、謡の表現と謡の創作を工夫し、どのように謡ったり創作したりするかについて思いや意図をもつ。</p> <p>(3) 謡を謡うためにふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方や、謡を創作するための節の付け方等の技能を身に付けて、謡ったり謡をつくったりしている。</p> <p>(4) 謡の音色や速度、リズム、節の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、能の特徴とその背景となる文化や歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりして音楽を鑑賞する。</p>					
【教材】能「羽衣」			【時数】6時間		
本題材で学習する〔共通事項〕					
ア	音色	声の音色、発声		イ	序破急
	リズム	拍子合			
	速度	序破急			
	旋律	節、産字、ヨワ吟			
【学習指導要領の指導事項との関連】 表現(1)歌唱イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。		【学習指導要領の指導事項との関連】 表現(3)創作ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。		【学習指導要領の指導事項との関連】 鑑賞(1)イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。	
【主な学習活動】 ・謡の発声や旋律の動きの特徴に関心をもち、基礎的な謡の謡い方を身に付ける。(第2時) ・発声や節の特徴を生かして工夫して謡う。(第4時) ・発声や節の特徴を生かして謡う。(第5時)		【主な学習活動】 ・謡の節や言葉の特徴を生かして謡を創作する活動に主体的に取り組む。(第3時) ・節やリズム、速度などの特徴を捉え、工夫して謡いを工夫して創作し、思いや意図をもつ。(第4時) ・節やリズム、速度の特徴を生かして謡を創作する。(第5時)		【主な学習活動】 ・能の背景となる文化・歴史、我が国の伝統音楽の特徴を感じ取り、能を鑑賞する。(第1時) ・能の謡の特徴を物語と関連付けて理解し、自分なりの考えをもって鑑賞する。(第6時)	
【指導する知識・技能】 ・節：旋律的な音の動き ・ヨワ吟：ツヨ吟より音域が広い ・旋律の音階：中音、下音 ・速度：序破急 ・拍子合：拍にのって謡の言葉が合う ・産字：ア行以外の母音を伸ばす ・節記号：中、下、直節、 二字引き、三字引き ・発声の仕方：息の吸い方、身体の準備、声の出し方		【指導する知識・技能】 ・節：音の動き(中音、下音) 七五調の謡い文句、産字 ・リズム：拍子合、八拍子 ・節記号：中、下、直節、 二字引き、三字引き ・産字の効果：ア行以外の音の母音を伸ばす 音と音の間を調整する		【指導する知識・技能】 ・音楽、舞踊、演劇が融合した歌舞劇 ・1000年ほど前、田楽、猿楽の発祥 ・650年ほど前、喜劇としての「狂言」と分かれる。 ・観阿弥、世阿弥父子に基本の形 ・能舞台、面、装束 ・序破急	
【評価の視点】 ・謡の発声とリズム、節の謡の特徴について感じ取ったことを書いているか。(関・ワークシート) ・謡を謡う場面において、謡の発声、節、リズム、速度の特性を生かして、どのように謡うかについて思いや意図をもって謡っているか。(創・観察) ・謡の発声や節、リズム、速度の特徴を生かした息の吸い方、身体の準備、声の出し方で謡っているか。(技・観察)		【評価の視点】 ・謡を創作する場面において、謡い文句や節を考え、自分なりの意見を言い、他者の意見も聞いているか。(関・観察) ・自分の担当した謡い文句にリズムや中音、下音の節を考え、産字を入れて、自分なりの思いや意図を書いているか。(創・ワークシート) ・節やリズム、速度の特徴を生かしてグループで創作した作品を、ワークシートに節記号を用いて記譜しているか。(技・ワークシート)		【評価の視点】 ・意見発表の場面において、能の背景となる文化・歴史、総合芸術としての能の特徴などについて関連付けて、謡の声の音色や速度、節などの特徴に関連付けて自ら発言したり、他者の発言を聞き、それに対して反応したりしているか。(関・観察) ・能を鑑賞する場面において、能の特徴を理解し、キーワードを複数使って自分なりに考える能のよさや魅力についてまとめているか。(鑑・ワークシート)	

(2) 実践事例① 第1学年A表現 (3) 創作イ B鑑賞 (1) ウ
 [共通事項] 音色、リズム、構成

1 題材名 フィリピンや日本の竹を使った楽器の音色や音楽のリズムの特徴を感じ取り、それぞれのよさを味わおう

2 題材の目標

- (1) トガトンの音色に関心をもち、音楽のリズムや反復、対照などの構成が生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、主体的に鑑賞したり、創作したりする。
- (2) トガトンの音色や音楽のリズムの特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽で表現したいイメージをもち、竹素材の音色や奏法の特徴を感じ取って反復、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 竹素材の特徴を生かしたリズムアンサンブルをつくるために必要な技能を身に付けて音楽をつくる。
- (4) トガトンやささらに関心をもち、音色やリズムの特徴を知覚・感受しながら、フィリピンと日本の竹を使った楽器や音楽の多様性を感じ取って鑑賞する。

3 教材名 「トガトン」による演奏 (フィリピン カリంగా族)
 「ささら舞」(島根県 旧平田市多久町)

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①竹素材の楽器の音色や音楽のリズムの特徴と、その背景となる文化・歴史との関連に関心をもちながら鑑賞したり、反復・対照などの構成に関心をもちながら音楽表現を工夫して音楽をつくったりする学習に主体的に取り組もうとしている。(鑑賞・創作)	①トガトンの音色、音楽のリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽で表現したいイメージをもち、反復、対照などの構成を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(創作)	①トガトンの音楽のリズムの特徴や反復・対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて音楽をつくっている。(創作)	①トガトンやささらの音色や、伝統音楽のリズムの特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、フィリピンと日本の音楽の共通点や違いなどから多様性を感じ取って鑑賞している。(鑑賞)

5 題材観

本題材は、学習指導要領A表現 (3) 創作 イ「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。」、B鑑賞 (1) ウ「我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること」を実現するための題材である。

この学習は、フィリピンのカリంగా族の民俗楽器である「トガトン」を使ったリズムアンサンブルの創作である。生徒に自分たちがつくりたい作品のイメージを考えさせ、それを表現するための工夫を、反復や対照と、その組み合わせ方や重ね方等の構成も含めて考えさせていく。

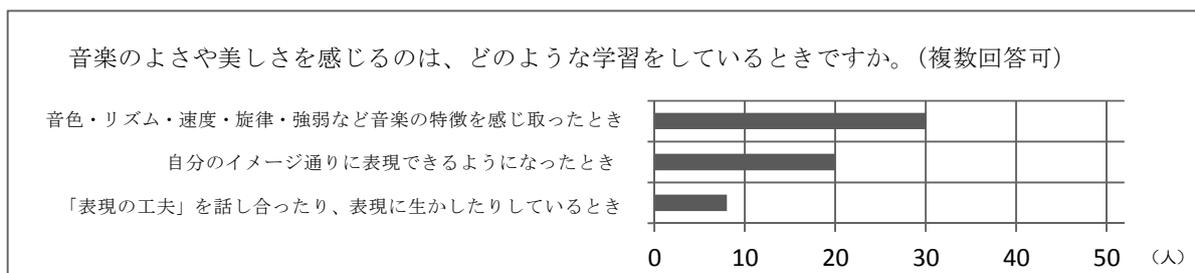
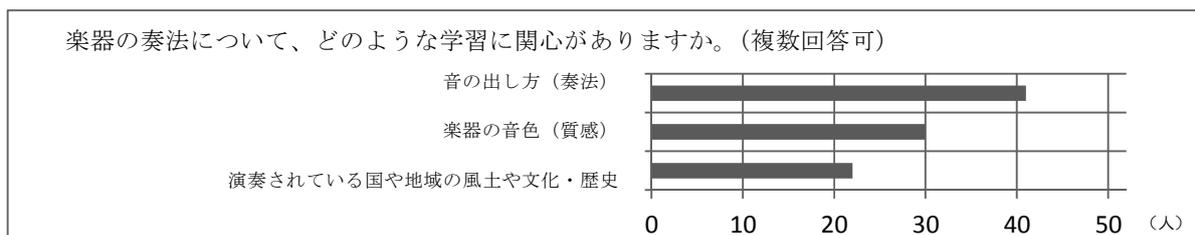
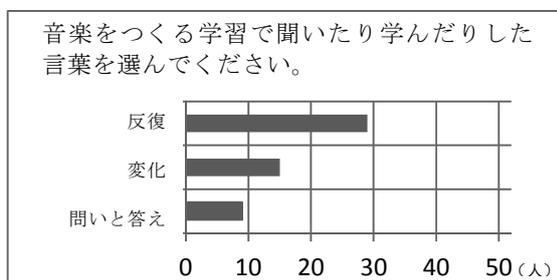
あらかじめ用意した「トガトン」を使用して創作させることで、体験を通して「トガトン」の音色や特質について深く感じ取らせる。また、本題材では、創作活動に続き、「アジアの諸外国の音楽」の特質や多様性をつかませるために、共に竹を材質として作られている、日本の伝統楽器である「ささら」とフィリピンのカリంగా族の民俗楽器である「トガトン」で演奏される楽曲とを比較した、鑑賞の学習を行うこととした。

このような活動を通し、生徒にじっくりと音楽と向き合わせることで、音楽に対する豊かな感性を育むことをねらいとしている。

6 生徒観

諸外国・日本の伝統音楽に関する「鑑賞」や「表現」、また、「創作活動」における「反復・対照（問いと答え）」等の構成において学習経験についての意識調査を行った。結果は以下の通りである。

〔調査日：平成26年10月 調査対象 第1学年 52人〕



意識調査の結果から、全ての生徒が日本の音楽を体験（表現、もしくは鑑賞）してきているのに対し、諸外国の音楽に関しては、体験している生徒が少ないことが分かった。また、生徒は楽器を扱った学習において、「音の出し方」や「楽器の音色」を捉える学習に関心が高いということや、特に「リズム・強弱・旋律・速度など音楽の特徴の発見ができたとき」に音楽のよさや美しさを感じ取ることができるということが分かった。一方、「表現の工夫を話し、表現に生かしているとき」に音楽のよさを感じている生徒が少なかった。このことから、グループ学習の充実を図るための工夫をすることが必要であると考えた。

そこで、今回の学習では、実際のトガトンを用いて創作活動をさせることにより、体験を通して楽器の音色や奏法を感じ取らせた。その際、多くの生徒が学習体験のある反復を学習に生かす。また、今回の創作の学習では、グループ学習を行い、自分の表現したいイメージを考えた後、意見交換をする時間を設けることにより、学び合いの学習ができるように指導を工夫する。意見を出し合い音楽をつくり上げていく中で、音楽のよさや美しさを感じ取ることができるようにする。

さらに、鑑賞の学習では、実際のトガトンとささらを聴かせ、音色に着目させるとともに、音楽を聴き比べ、同じ竹の素材である楽器の音色や、アジア地域のフィリピンの音楽のリズムの特徴の違いや共通点等を感じ取らせる。

7 本題材における具体的な指導の工夫

(1) 生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わう指導の工夫

①教材提示

- ・一人一本ずつ「トガトン」を配布し、実際に音を出す時間を設け、音色のよさや奏法に

よる音色や響きの違いを感じ取らせる。

- ・「びんささら」を提示し、実際に奏法の確認音を実際に鳴らして音色や響きを感じ取らせる。

②比較聴取

- ・実物教材「ささら」と「トガトン」を提示。
同じ竹を素材とした楽器同士を比較させることにより、音色や奏法の共通点や違いを感じ取らせる。

(2) 生徒が主体的に音楽を捉えるための学習活動の工夫

①学び合い

- ・グループ活動の際、教師が学習活動に応じた問い掛けを工夫し、一人一人の学習活動を意識化する。
- ・グループで創作活動を行う際に、はじめに個人で考える時間を設け、付箋紙に記入させる。付箋紙を班のまとめ役に提出し、読み上げたり、班員で付箋紙を見合ったりしながら、意見交換を行う。

8 指導計画と評価の計画 (全4時間扱い)

	○学習内容・学習活動	◇指導上の留意点/【評価規準】
第 1 時	<p>【ねらい】竹の素材でできた楽器の音色や音楽のリズムの特徴に関心をもつとともに、音楽のしくみについて関心を持ち、主体的に鑑賞したり、創作をしたりしようとする。</p>	
	<p>○ トガトンの音色や音楽の特徴を感じ取る。 ・音楽を鑑賞し、「音色」の特徴を感じ取る。 ・音色から「材質」や「リズム」を想起する。 ・映像を視聴し「トガトン」の楽器の特徴や奏法の特徴について感じ取ったことをワークシートに記入する。 【リズムの特徴】:「トン・トン・トントン・トン」 </p> <p>・楽器や音楽が演奏されている国などについて知る。</p> <p>〈音色の特徴についてのワークシートの記述〉 ・竹と石の二つしか使っていないのに、竹の長さが違うだけで音の高さが変わる。 ・手で押さえることで、響くようなポンという音を出すことができる。</p> <p>○ 反復、対照などの音楽の構成の特徴を理解する。 ・身近な音楽を通して反復や対照の特徴を感じ取る。 反復 [♪メリーさんのひつじ] 対照 [♪かくれんぼ] ・反復や対照を即興表現する。 教師の提示したリズムを模倣させて繰り返したり、教師の提示したリズムに即興で対照のリズムを表現したりする。</p> <p>○ まとめ ・「トガトン」の音楽から、音色やリズムのどのような特徴を感じ取ることができたか。</p>	<p>◇ 楽器の材質を想像しながら、音色やリズムの特徴を感じ取らせる。 ◇ 映像から、トガトンが筒状の竹でできており、石に軽く落として響かせる奏法に気付かせる。 ◇ 同じリズムが繰り返し演奏されていることに気付かせる。 ◇ フィリピンの楽器であることを伝え、フィリピンの地理や気候等について触れる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">＜指導する知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンについて 地理:海に囲まれている多くの島からなる 気候:1年を通して気温・湿度が高い 年平均気温 26~27℃ 雨期と乾期がある ・反復や対照 </div> <p>◇ 音楽のしくみを生かして音楽の創作をすることを、生徒に伝える。 ◇ 様々なリズムで反復や対照を表現させる。 【観点ア① 評価方法:観察、ワークシート】 ※評価の視点 トガトンの音色やリズムの特徴、反復や対照について感じ取ったことを、それぞれ自分の言葉でワークシートに記述しているか。(ワークシート)</p>

【ねらい】音楽で表現したいイメージをもち、トガトンの音色やリズム、反復・対照などの構成を工夫して音楽表現を工夫し、音楽をどのように作るかについて思いや意図をもつ。

- 「トガトン」の音色や特質を感じ取る。
 - ・ 6人の班をつくり、丸くなって座る。
 - ・ トガトンの長さや音の出し方による音の違いを感じ取る。

- ◇ 各班に、音色の違う6本をセットにしてトガトンを持たせる。
- ◇ 楽器の持ち方や奏法を工夫させる。
- ◇ 奏法による音色や響きの違いに味わいながらトガトンの特質を感じ取らせる。

－音や音楽をそれぞれの感じ方で味わう指導の工夫－

- ・ 一人一本ずつ「トガトン」を配布し、実際に音の出し方を工夫する時間を設け、音色のよさや奏法による音色や響きの違いを感じ取らせる。

<音色のよさや奏法に気付かせる場面>

発問 「どのように音を出したらよい音がでるか、ためしてみましよう。」

→ 生徒 「少し斜めにするとよい音がでる。」 「穴をふさいでも音が鳴る。」

発問 「長さによる音の違いはありますか。」

→ 生徒 「長い方が低い音がでる。」 「こっちは高い音がでる。」

- 表現したいイメージをもち、音楽を創作する学習の見通しをもつ。
 - ・ 創作活動の流れを知る。
 - ・ 付箋紙に記入した内容を伝え合い、意見をまとめて、班の作品のテーマとイメージを決定する。
 - ・ 担当するトガトンの分担をする。
 - ・ 創作の手順を基に、それぞれの考えを出し合いながら音楽をつくる。

- ◇ 創作活動の手順
 - ① イメージづくり
 - ・ フィリピンに関する知識を生かして創作したいイメージを考え、班のテーマを決定する。
 - ・ テーマから個人でイメージを想起し付箋紙に記入する。
 - ・ 付箋紙を見せ合い、話し合う。
 - ② 担当するトガトンの音高の分担
 - ③ 音楽づくりのきまり
 - ・ トガトンのリズムの特徴を生かす。
 - ・ 「反復」と「対照」を入れる
 - ・ 音の重ね方や組み合わせ方を考え、図で示す
 - ・ 始め方や終わり方を考える。
- 組み合わせ方の例（問い－答え）

－生徒が主体的に音楽を捉えるための学習活動の工夫－

<グループで創作活動>はじめに個人で考える時間を設け、付箋紙に記入させる。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 班のテーマ 「海」 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 生徒A ・ 波打ち際 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 生徒B ・ きらきら太陽 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 生徒C 青い空／白い雲 </div>
---------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

（生徒付箋紙内容記入より）

第2時



付箋紙を班のまとめ役が集約し、読み上げたり、班員で付箋紙を見たりしながら、意見交換を行う。

それでは、「トン・トト・トン」のリズムで答えよう。

問いのリズムを「トン・トン・トントン・トン」としようかな。

- まとめ・振り返りシートを記入する
 - ・ アンサンブルで表現したいイメージをもち、トガトンのリズムを生かして反復や対照などの構成を工夫することができたか。
 - ・ イメージに合ったアンサンブルの作品を創作するためには、さらにどのような音楽表現が考えられるか。

【観点イ① 評価方法：観察、ワークシート】

※評価の視点

表現したいイメージを班で伝え合い、創作活動の手順を確認し、どのように音楽を作るかについて、トガトンの音色を工夫し、リズムを試行錯誤しながらつくっているか。（観察）

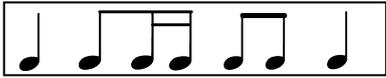
【ねらい】日本及びフィリピンの音楽をリズムや音色を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取りながら音楽の多様性を感じ取って鑑賞する。

○ ささらの音色や音楽のリズムの特徴を感じ取り、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取る。

—音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための工夫—

・竹でできた楽器の奏法や音色の比較 ・日本と諸外国の伝統音楽の比較
発問「トガトンとささらはどのような音色の違いがありますか」→生徒「ささらの方がかたい音色」

・「ささら」の現物を見せ、材質や奏法について知る。
・「すりささら」「びんささら」が使われる「ささら舞」を鑑賞し、奏法や楽器の構造の違いによる音色の違いや雰囲気の違いを感じ取る。
・楽器や楽曲とその歴史的・地域的な背景などを知る。
・リズムの特徴を捉える
・映像を視聴し「ささら」の奏法やリズムの特徴を捉え気付いたことをワークシートに記入する。
・リズムの特徴「ザッ・ザッザザ・ザッザッ・ザッ」



・同じリズムが繰り返し使われている。→「反復」

○ ささらとトガトンそれぞれの楽器の音色や音楽のリズムの特徴の共通点や相違点から、音楽の多様性やよさを捉える。
・「トガトン」と「ささら舞」の両方を鑑賞し、ワークシートに感じたことを記入させる。

＜指導する知識・技能＞

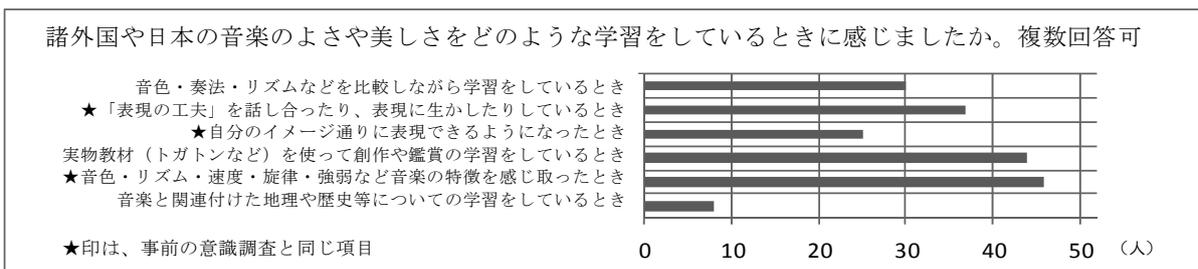
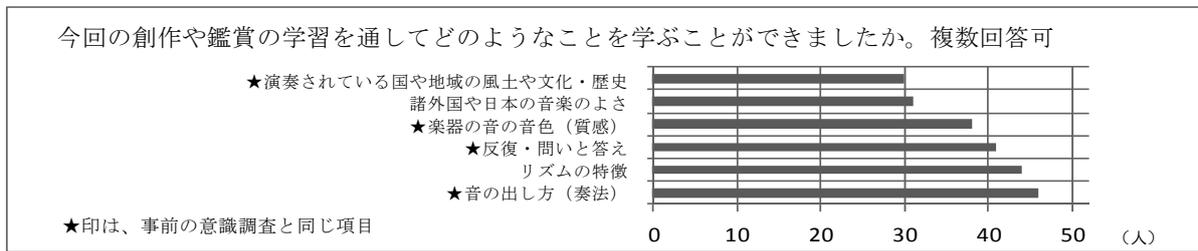
- ・ささら：「すりささら」と「びんざさら」
- ・すりささら：田楽や獅子舞などの民俗芸能に用いられる。
- ・ささら舞：旧平田市多久町で行われた田楽。

楽器：腰に着ける鼓、びんざさら、すりざさらで、大波・小波の舞などを行う。

【観点エ① 評価方法：ワークシート、発言】
※評価の視点
ささらとトガトンの楽器の音色の特徴と、音楽のリズムの特徴や雰囲気を、ワークシートに記述している。また、2つの楽器や音楽の特徴の共通点や相違点を記述しているか。（ワークシート）

第4時

9 生徒の変容 [調査日：平成26年12月 調査対象 第1学年 52人]



今回学んだ諸外国と日本の音楽や楽器の共通点や違いについて感じたことを書きましょう。

- ・フィリピンと日本の楽器の音色は違ったが、どちらもきれいな心に響くような音色だった。
- ・トガトンは弾むようなリズムだったが、ささらの方は、穏やかなリズムで演奏されている。
- ・それぞれの国によって使われる楽器は違うけれど、音色からその国の風土や情景が感じられる。
- ・同じ素材にもかかわらず、楽器の音色が違う。音楽に反復が使われていることは共通していた。

生徒は楽器の実物の音色を聴くことにより、音色の特徴や響きの美しさを体感しながら味わうことができた。また、楽器の素材や音色、音楽のリズムの特徴と関連付けて、日本とフィリピンの自然や風土・文化等に触れることにより、それぞれのよさや特徴、違いや共通点を見いだすことができた。さらに、創作活動を行う際に、生徒一人一人に自分の考えをもたせ、役割を与えることを意識付けたことにより、生徒は反復・対照等の構成についての理解を深めることができるとともに、話し合いながら表現の工夫をすることができた。

実践事例② 第2学年 A表現(2)器楽ウ [共通事項] 音色、リズム、旋律、テクスチャ

1 題材名 ウェールズの音楽の旋律やリズムの特徴を感じ取り、リコーダーアンサンブルの響きの美しさを味わおう

2 題材の目標

- (1) リコーダーの音色の響きやウェールズの音楽のリズムや旋律の特徴、音の重なりに関心を持ち、音楽にふさわしい音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組む。
- (2) リズムや旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら様々なリコーダーの音色や曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。
- (3) 音楽表現をするために必要なアーティキュレーションを身に付けて演奏する。

3 教材名 「木かげの思い出」(ウェールズ民謡)

映画「ハリー Potter と賢者の石」より「ヘドウィグのテーマ」

4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
① 様々なリコーダーの音色や奏法、リズムや旋律の特徴、テクスチャに関心を持ち、それらを生かしたアーティキュレーションで演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けている。 ② 音色、リズム、旋律、テクスチャや声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。	① ウェールズ民謡にふさわしい音色、リズム、旋律、テクスチャや声部の役割や全体の響きとの関わりを音楽表現するために必要な技能(奏法、呼吸法、姿勢等の身体の使い方、読譜の仕方など)を身に付けて演奏している。

5 題材観

本題材は、学習指導要領第2・3学年の内容A表現(2)器楽ウ「声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。」を実現するための題材である。

本題材では、リコーダーの音色の重なりと響きに焦点を当てて、3種類のリコーダーを使用し、音色の違いを感じ取り、それぞれの音色の響きの特徴を生かしてアンサンブルを行う。アンサンブルを作り上げる中で一人一人が教え合い、励まし合い、工夫し合い、聴き合う中で、互いを認めながら高めていくような主体的な学習活動を設定する。

アンサンブルで演奏する「木かげの思い出」は、ブリテン島南西部に位置するウェールズの民謡である。四分の三拍子で、アウフタクトから始まる。音の跳躍が少なく、なめらかな曲想である。今回、リコーダーアンサンブル(ソプラノリコーダー2本、アルトリコーダー1本、テノールリコーダー1本)用にアレンジした。ソプラノリコーダーは旋律を担当し、アルトリコーダーは3度の副旋律の響きを担当し、テノールリコーダーは低音でハーモニーを支える。

6 生徒観

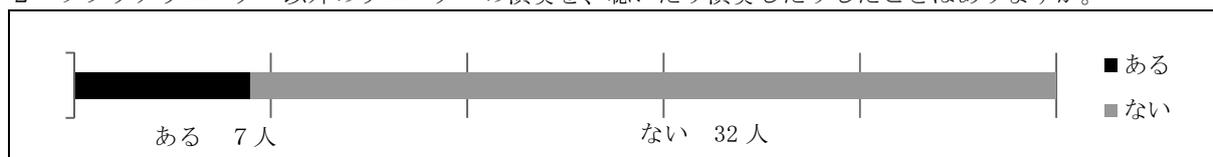
事前に行ったリコーダーに関する意識調査では次のような結果が出ている。

【調査時期：平成26年10月 調査対象：第2学年生徒39名】

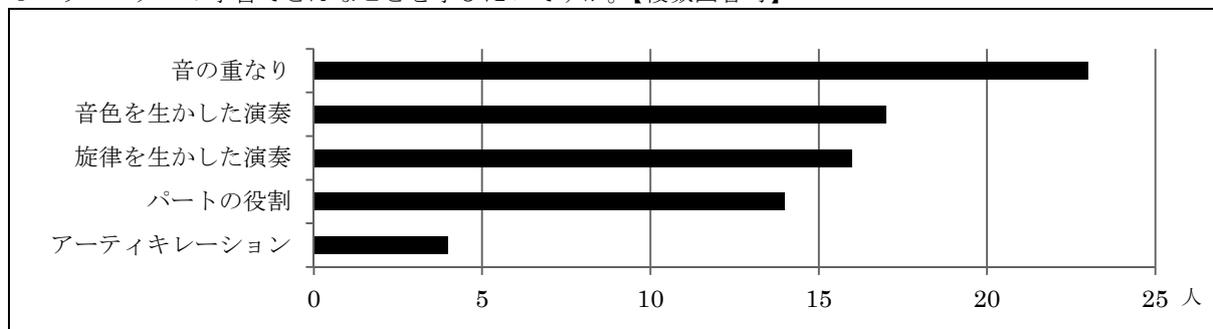
1 今までにリコーダーで二重奏や三重奏などのアンサンブルをしたことはありますか。



2 ソプラノリコーダー以外のリコーダーの演奏を、聴いたり演奏したりしたことはありますか。



3 リコーダーの学習でどんなことを学びたいですか。【複数回答可】



調査結果から、半数以上が二重奏を経験していた。また、ソプラノリコーダー以外のリコーダーを聴いたり演奏したりしたことのある生徒は2割以下であった。リコーダーの学習で学びたい内容については、音の重なりに興味をもっている生徒が23人と最も多かった。一方、アーティキレーションについて関心をもっている生徒は、4人とどまった。

そこで、本題材では、様々なリコーダーの音色を味わい、ウェールズ民謡の旋律の特徴を生かした、音楽表現を工夫することを通して、アンサンブルの響きの美しさを感じ取らせる。また、曲にふさわしいアーティキレーションを工夫する学習活動を設定する。

7 本題材における具体的な指導の工夫

(1) 生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫

①教材提示

- ・実際にいろいろな種類のリコーダー(ソプラノリコーダー、アルトリコーダー、テノールリコーダー)を提示し、音を聴かせることにより、音色の違いや音域の違いを感じ取らせる。

②比較聴取

- ・映画「ハリーポッターと賢者の石」より「ヘドウィグのテーマ」や「グリーンズリーヴス」など、身近な楽曲を比較聴取させることによって、ウェールズ民謡(イギリス民謡)の特徴を理解させる。

(2) 生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫

①パート同士の教え合い

- ・音階やリズムの確認や、運指を教え合いながら授業を進めることができるよう、同じリコーダーのパート毎に学習を進める。

②グループによる学習

- ・曲に合う奏法を工夫し、音の重なりや、全体の響きのバランスを工夫する。それぞれが感じ取ったことをもとに互いに意見を発表し合い、グループで演奏して確かめる。

8 指導計画と評価の計画（全4時間扱い）

	○学習内容・学習活動	◇指導上の留意点【評価規準】
第 1 時	<p>【ねらい】リコーダーの種類による音色の特徴やウェールズ民謡の旋律やリズムの特徴に関心をもち、主体的にアンサンブルに取り組む。</p>	
	<p>○ リコーダーの種類による音色の違いを理解する。</p> <p>○ アルトリコーダーの運指を理解する。</p>  <p>※吹き口を揃えて並べると、「ド」の運指が同じ位置になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が3種類のリコーダーを提示し、同じ曲を演奏し、響きの特徴やよさを感じ取らせる。 ・リコーダーは、長さで音の高さが変わることを理解させ、ソプラノとアルトの2本のリコーダーを並べて示して、運指が異なることを理解させる。
	<p>ー 生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫 ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にいろいろな種類のリコーダーを見せ、音を聴かせ、音色や音域の違いを理解する。 発問「リコーダーにはいろいろな種類がありますが、大きさや太さが異なることによって音の高さや響きにはどのような特徴があるのでしょうか。」 →生徒「大きくなると音が低くなります。」 生徒「柔らかい響きになるように感じます。」 発問「ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーでは、同じ運指でも異なる音が出ます。その秘密を、リコーダーを見比べて考えましょう。」 →生徒「ドを押さえる位置は同じです。リコーダーの大きさが変わると運指は変わるけれど、実際に押さえる位置は同じということが分かりました。」 	
	<p>○ 「木かげの思い出」の旋律やリズムの特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ハリー・ポッターの賢者の石」から「ヘドウィグのテーマ」を聴き、旋律やリズムの共通点を聴き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェールズ民謡(イギリスの民謡)の旋律やリズムの特徴に気付かせる。「木かげの思い出」については、教師が予め録音しておいた3重奏を鑑賞させる。 ・4分の3拍子、アウフタクトから始まる、跳躍進行が少ない等の特徴を感じ取らせる。
	<p>ー 生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫 ー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な楽曲を比較聴取させることによって、特徴を理解させる。 発問「『木かげの思い出』の演奏を、旋律の特徴を感じ取って聴きましょう。何拍子の曲でしょう。また、どのような旋律の特徴があるでしょう。」 →生徒「3拍子の曲でアウフタクトで始まる曲です。曲の雰囲気は、なめらかな感じですよ。」 発問「ウェールズは、グレートブリテン島の南西部に位置するイギリスの一部ですが、ハリー・ポッターの映画もイギリスを舞台にして作られています。では、ハリー・ポッターの映画の曲『ヘドウィグのテーマ』を聴きましょう。『木かげの思い出』とどのような特徴が同じでしょうか。」 →生徒「両方とも3拍子で、アウフタクトで始まる曲です。また、どちらもなめらかな感じの曲です。ハリー・ポッターはイギリスの話なので、作曲者はきっとイギリスの民謡の音楽の特徴を曲の中に入れていたのですね。」 	
	<p style="text-align: center;">＜指導する知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのリコーダーの響きや音高や運指の特徴 ・ウェールズの音楽(イギリスの民謡)の特徴 〔3拍子、アウフタクト、なめらかな曲(音程があまり跳躍進行しない)が多い〕 	

<p>第1時</p>	<p>○ 「木かげの思い出」の旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏を聴く。 ・音階やリズムを確認する。 ・演奏する際に難しい運指を、部分的に確認する。 ・一人で演奏→ペアにより確認、教え合い→学級全体で合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで教え合いながら学習を進めるようにする。 <p>【観点ア① 観察・ワークシート】</p> <p>※評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの音色の特徴や、ウェールズの音楽の旋律やリズムの特徴について感じ取る場面において、自ら発言したり、他者の発言を聞き、それに対して反応をしたりしているか。(観察) ・リコーダーの演奏をする際、聴いたり楽譜を見たりしながら演奏し、ペア学習で音階やリズム、運指を確認しながら演奏しているか。(観察)
<p>第2時</p>	<p>【ねらい】 旋律の重なる響きの美しさを感じ取り、表現を工夫し、どのように演奏するか思いや意図をもつ。</p> <p>○ 「木かげの思い出」の旋律の重なる響きの美しさを感じ取り、音楽表現を工夫して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各旋律の特徴を感じ取る。 ・各パートの役割を理解し、一人一人のパートを決める。 ・4人でグループを編成する。 ソプラノリコーダー (2人) アルトリコーダー (1人) テノールリコーダー (1人) ・パート学習に取り組み、リズム、音階、運指を確認して演奏する。 パートで音階、リズム、運指を確認→一人一人で演奏→パートで確認、教え合い→パートで合わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜指導する知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートの役割 <p style="margin-left: 20px;">ソプラノパート：主旋律</p> <p style="margin-left: 20px;">アルトパート：副旋律</p> </div> <p style="text-align: center;">－ 生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫 －</p> <p>①パートごとに学習を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノリコーダーとテノールリコーダーのパート →パートリーダーが音階とリズム、運指を確認しながら進める。 ・アルトリコーダー →運指が異なるため、初めにパート全体で音階とリズムを確認した後、教師が運指を指導する。 <p>②グループで合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで合わせる。 ・2人のソプラノリコーダーの中で、順に一人ずつの拍打ちをする。拍に合わせて、グループで合わせる。 →4人で合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや音階、運指を確認しながら進める。 ・パート別の音源を用意し、範奏に合わせて学習をする。 <p>・ソプラノパートに、拍打ちをする役割をもたせる。</p> <p>【観点イ① ワークシート・観察】</p> <p>※評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の重なるのよさを感じ取り、学習したキーワードをもとに、音色や旋律の特徴や響きの美しさをワークシートに記述し、自分なりに思いや意図を記入しているか。(ワークシート) ・曲にふさわしい呼吸法、姿勢等の身体の使い方、読譜の仕方などを工夫し、演奏に生かしているか。(観察)

第3時	<p>【ねらい】アーティキュレーションの奏法を理解して、「木かげの思い出」の旋律に合うリコーダーの奏法を工夫する。</p> <p>○ 奏法(ノンレガート、レガート、ポルタート、スラー)について理解する。教師の演奏を比較して、曲に合う演奏を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レガート ・ノンレガート ・スラー ・ポルタート <p>○ グループ学習により、奏法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーティキュレーションによる曲想の違いを感じ取りながら、奏法を工夫する。 ・アウフタクトの部分の奏法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「木かげの思い出」を教師がそれぞれの奏法を摸奏する。 ・いろいろな奏法で演奏させ、ふさわしいアーティキュレーションかを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜指導する知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーティキュレーション レガート、ノンレガート、スラー、ポルタート </div> <p>【観点イ② 観察・ワークシート】</p> <p>※評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしいアーティキュレーションを工夫するために意見交換しながら演奏に生かしているか。(観察)
第4時	<p>【ねらい】音の重なりや全体の響きとの関わりを意識してアンサンブルを演奏する。</p> <p>○音の重なりバランスを意識して演奏する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">－ 生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫 －</p> <p>【発問】「それぞれのパートの役割を考えて、全体の響きのバランスがよくするための、息の量やスピードの工夫を考えましょう。」</p> <p>→【生徒】「ソプラノのパートはメロディなのでよく聴こえるように息のスピードを保ちながら演奏します。」</p> <p>「アルトリコーダーのパートはメロディを支えてハーモニーに厚みを付けるので、ソプラノの旋律を聴きながら柔らかい息で演奏します。」</p> <p>「テノールリコーダーのパートはハーモニー全体を支えるので、楽器全体を響かせるように深い息で演奏します。」</p> </div> <p>○ グループ毎に演奏し合う。(聴く視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色 ・響き ・アーティキュレーション ・バランス <p>・良かったところ、工夫されていたことについて、意見交換をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの演奏を聴きながらバランスを合わせるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">－ 生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫 －</p> <p>【発問】「それぞれのパートの役割を考えて、全体の響きのバランスがよくするための、息の量やスピードの工夫を考えましょう。」</p> <p>→【生徒】「ソプラノのパートはメロディなのでよく聴こえるように息のスピードを保ちながら演奏します。」</p> <p>「アルトリコーダーのパートはメロディを支えてハーモニーに厚みを付けるので、ソプラノの旋律を聴きながら柔らかい息で演奏します。」</p> <p>「テノールリコーダーのパートはハーモニー全体を支えるので、楽器全体を響かせるように深い息で演奏します。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワード(音色、アーティキュレーション、響きのバランス)の視点で聴き合うようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜指導する知識・技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・息の使い方：息を出す量やスピード </div> <p>【観点ウ① 演奏】</p> <p>※評価の視点</p> <p>正しい音階やリズム、運指と、曲にふさわしい息のスピードや量等で全体の中の音量のバランスよく音色を響かせて演奏しているか。(演奏)</p>

9 生徒の変容

事後の意識調査では、生徒は次のような記述をしている。

生徒A：リコーダーは指づかいが難しかったが、グループの子に教えてもらい吹けるようになった。自分たちで作り上げたことにより、アンサンブルのよさを感じ取ることができた。

生徒B：今までは独奏しかしたことがなかったが、4人で合わせるとさらにきれいになった。

生徒C：ウェールズの音楽は、今まで知らなかったけど、「ハリーポッター」の曲と比べて聴いて、ウェールズやイギリスの音楽がどんな特徴か分かった。「木かげの思い出」以外のウェールズの音楽も聴いてみたくなった。

今回の学習を通して、生徒は様々な種類のリコーダーの音色の特徴を感じ取るとともに、グループ学習等を通して、アンサンブルの音色の響きの美しさを味わうことができた。

また、生徒の馴染みのある音楽と関連付けてウェールズの音楽の特徴を比較聴取することより、学習意欲を喚起し、ウェールズの音楽についての関心を広げることにつながった。

実践事例③ 第3学年 A表現(1)歌唱イ (3)創作ア B鑑賞(1)イ
 [共通事項] ア音色、リズム、速度、旋律 イ序破急

1 題材名 謡の体験を通して我が国の伝統的な歌唱の特徴を感じ取り、能のよさを味わおう

2 題材の目標

- (1) 能の背景となる文化・歴史、我が国の伝統音楽の特徴を理解し、謡の音色や速度、リズム、節に関心をもち、主体的に鑑賞、謡い、創作する。
- (2) 謡の音色やリズム、節、速度、節の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら謡の特徴を感じ取り、謡の表現と謡の創作を工夫し、どのように謡ったり創作したりするかについて思いや意図をもつ。
- (3) 謡を謡うためにふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方や、謡を創作するための節の付け方等の技能を身に付けて、謡ったり謡をつくったりしている。
- (4) 謡の音色や速度、リズム、節の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、能の特徴とその背景となる文化や歴史と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりして音楽を鑑賞する。

3 教材名 能「羽衣」 作者不詳

4 題材の評価規準

ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①謡の音色や速度、リズム、節の特徴を知覚し、能の発祥の歴史や文化と関連付けて理解し、主体的に鑑賞しようとしている。(鑑賞) ②謡の音色や速度、リズム、節の特徴に関心をもち、それらを生かして謡ったり創作したりする学習に主体的に取り組もうとしている。(歌唱・創作)	①謡の音色や速度、リズム、節の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら謡にふさわしい発声や産字の特性を理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように謡うかについて思いや意図をもっている。(歌唱) ②知覚・感受しながら謡の速度、リズム、節、産字などの特徴を捉えた音楽表現を工夫し、どのように謡をつくるかについて思いや意図をもっている。(創作)	①謡の特徴を生かして歌唱表現をするために必要な、発声、言葉の発音、体の使い方を身に付けて謡っている。(歌唱) ②節、リズム、産字やなどの特徴を生かした音楽表現をするために必要な節のつくり方や節記号の付け方などの技能を身に付け、簡単な謡を創っている。(創作)	①能の音色や速度、リズム、節を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽の特徴とその背景と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりして鑑賞している。(鑑賞)

5 題材観

本題材は、学習指導要領第2、3学年の内容A表現(1)歌唱イ「曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。」、(3)創作ア「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」、B鑑賞(1)イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。」を実現するための題材である。

日頃生徒たちは、日本の伝統音楽に触れる機会が少ない。そこで本題材では、能楽を鑑賞したり謡を謡ったりすることで、日本の伝統音楽に親しみ、興味・関心をもたせるようにするとともに、謡の特徴を生かして謡の創作に取り組むことにより、主体的に学習することをねらいとする。

6 生徒観

事前に行った能に関する意識調査では次のような結果が出ている。

【調査時期：平成26年7月 調査対象：第3学年生徒53名】

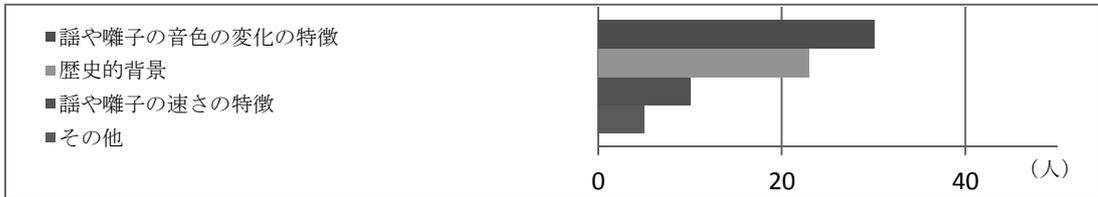
- 1 日本の伝統音楽を体験（観たり聴いたり演奏したり）したことはありますか。
（複数回答可）

①箏 (53)	②三味線 (53)	③和太鼓 (19)	④尺八 (5)	⑤能 (4)	⑥歌舞伎 (4)	⑦囃子 (2)
⑧篠笛 (1)	⑨文楽 (0)					() 内は人数

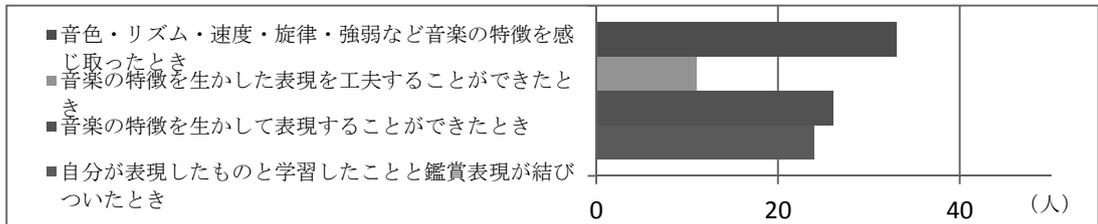
- 2 「能」のよさとは何でしょう。

<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統芸術の雰囲気が伝わる。(8) ・日本らしい表現の仕方が分かる。(6) ・日本独特の踊りや衣装、面を付ける。(4) ・音がとてもゆっくりで、聴きやすい。(2) ・怖そうな感じがする。(2) ・華やかな感じがする。 ・音色がとてもきれい。 ・昔から日本にある楽器を使っている。 ・心を落ち着けて観ることで、日本の伝統の素晴らしさ、きめ細かさが分かる。 ・昔からあって、昔のまま今も続けられている。 	() 内は人数
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------

- 3 「能」のどのようなことに関心がありますか。（複数回答可）



- 4 音楽のよさや美しさを感じるのは、どのような学習をしているときですか。
（複数回答可）



調査項目1から、第1学年、第2学年で学習した箏、三味線以外の日本の伝統音楽・芸術を体験したことのある生徒は、太鼓以外については1割以下となっている。そのことから、調査項目2の能のよさについても、抽象的な記述にとどまっている。しかし、調査項目3から、謡や囃子の音色の変化や特徴、歴史的背景等に関心をもっている生徒は多い。さらに、調査項目4から、生徒は、多様な学習活動を通して音楽のよさや美しさを感じていることが分かった。

この結果を生かし、今回の学習では、文化や歴史的背景と関連付けて能の音楽的な特徴を捉えさせるとともに、ゲストティーチャーによる謡の謡い方や、節の特徴を生かした節づくりについて直接指導を受ける学習を行った。

そして、謡を謡ったり創作したりした学習が、能の鑑賞を通して実際の能の中でどのように現れているのかを確認する学習活動を設定することにより、能のよさや美しさを、より深く感じる機会になると考えた。

7 本題材における具体的な指導の工夫

- (1) 生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫

①教材提示

- ・面の実物を提示して、面に直接触れながら、能の音色や速度等の特徴を捉えさせる。

- ・ゲストティーチャーの能楽師による謡の謡い方や節づくりについて、専門的な指導を受ける。

◇ゲストティーチャー（能楽師）との事前打合せ

- ・指導の時間配分と役割分担。・生徒が謡を体験する部分と方法。
- ・謡を創作するために必要な指導内容。
- ・発声の仕方、産字、節記号などについての理解を深めるための指導方法。

②比較聴取

- ・学んだ内容が実際の能の中でどのように現れているのかを映像と比較し、共通点や相違点を感じ取らせる。

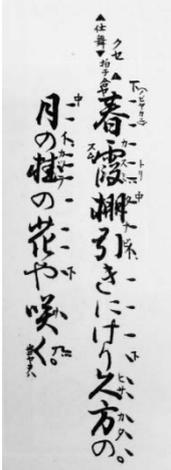
(2) 生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫

①学び合い

- ・ワークシートでまとめた個人の考えをもち寄り、ホワイトボードを使ってグループで意見交流を行うことにより、一人一人の学習活動を生かす。
- ・ホワイトボードを学び合いの場面で活用することで、生徒一人一人が自分の考えをもち、他者の考えと共通点や相違点を意識しながら考えを深める。

8 指導計画と評価の計画（全6時間扱い）

	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点/【評価規準】
第 1 時	<p>【ねらい】能の背景となる文化・歴史について理解し、謡に関心をもって主体的に鑑賞する。</p> <p>○ 面や装束、能舞台など総合芸術としての能についての知識や歴史的な背景を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能「羽衣」キリから「東遊びの数々に～」の部分をDVDで鑑賞する。 ・面の実物を提示する。 	<p style="text-align: center;"><指導する知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1000年ほど前、田楽、猿楽の発祥 ・650年ほど前、「能」と「狂言」に分かれた ・観阿弥、世阿弥父子により基本の形 ・能舞台、面、装束 ・序破急
	<p style="text-align: center;">—音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面の実物を提示して、面に直接触れながら、能の音色や速度等の特徴を捉えさせる。 <p>発問「見え方はどうですか」→生徒「視界が狭い。だからすり足で歩くのだろうか。」</p> <p>発問「能の謡の速度、旋律の動き発声の仕方には、どのような特徴があるだろう。」</p> <p>→生徒「ゆっくりで、音のつながり方がなめらかに感じる。」</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 面や装束、能舞台、能の背景となる歴史についても触れ、謡における声の特徴、速度（序破急）、節との関連を考えさせる視点を与える。 ◇ 「羽衣」の最初のツヨ吟の部分「風早の～」、語りの部分「のうその衣は～」、最後のヨワ吟の部分「東遊びの～」を順に流し、3つの部分の音高や速度の違いに着目させる。 ◇ 物語全体を通した「音楽の速さの変化」に着目しながら鑑賞するように伝える。 ◇ 旋律の動きを図形楽譜で記入させる。 <p>【観点ア①（鑑賞）評価方法：観察、ワークシート】</p> <p>※評価の視点</p> <p>意見発表の場面において、能の背景となる文化・歴史、総合芸術としての能の特徴などについて関連付けて、謡の声や速度、節の特徴について自ら発言したり、他者の発言を聞き、それに対して反応したりしているか。（観察）</p>
	<p>○ 謡における速度（序破急）、旋律の動き、声の特徴について関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「羽衣」の「風早の～」、「のうその衣は～」「東遊びの～」の部分を「謡の速さの変化」に注目して順に鑑賞し、速度の変化についてワークシートに記入する。 ・旋律の動きを図形楽譜で記入して、自分の考えを書く。 	

<p>第2時</p>	<p>【ねらい】 謡の発声や節の特徴に関心をもち、基礎的な謡の歌い方を身に付けて謡を謡う。</p> <p>○ 謡の発声とリズム、節の特徴について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 能「羽衣」クセから（平ノリ）「春霞棚引きにけり久方の月の桂の花や咲く」を聴き、声の音色、発声の仕方、節の動きの特徴について記入する。 節（ヨワ吟、音高の変化）、リズム（拍子合） 謡の発声法  <p>（出典：金剛流謡曲本「羽衣」 檜書店より）</p> <p>○ 基礎的な謡の謡い方を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音源の模範演奏を参考に息の吸い方、身体の準備声の出し方等を追求して謡う。 <p>これが謡本なのだね。記号が、音の高さや長さを表すということが分かった。生徒</p>	<p>◇ 囃子が入っていないく、謡部分が聴き取りやすい音源を用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声の仕方、リズム、節の特徴について気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><指導する知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 発声 …息の吸い方（腹まで息を吸い込む） 身体の準備（喉を開き喉頭隆起を下げる） 声の出し方（喉頭隆起に響かせる） リズム…拍子合（拍に謡の言葉が合う） 節 …ヨワ吟（旋律的で音域が広い） 中音、下音（音高） 産字（ア行以外の音の母音を伸ばす） </div> <p>◇ 謡本を拡大して提示し、謡の記譜法を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 謡を謡い、節の特徴と、節記号との関連に気付かせる。 <p>【観点ア②（歌唱）評価方法：観察、ワークシート】</p> <p>※評価の視点 謡の発声とリズム、節の謡の特徴について感じ取ったことを書いているか。（ワークシート）</p> <p>【観点ウ①（歌唱）評価方法：観察】</p> <p>※評価の視点 謡の拍子合のリズムやヨワ吟、産字等の節の特徴を生かした音楽表現をするために必要な発声や身体の使い方を身に付けて謡っているか。</p>
<p>第3時</p>	<p>【ねらい】 謡の節や言葉などの特徴を生かして謡を創作する活動に主体的に取り組む。</p> <p>○ 謡のつくり方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 節のつくり方、節記号について理解する。 謡をつくるときの方法を知る。 <ol style="list-style-type: none"> 自作の俳句を基にした七五調の謡を考える。 各自が分担して節を考える。 節に節記号を付ける。 <p>—生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫—</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の学習活動を生かすことのできる場をつくる。 <p>発問「言葉に合った音の高さの変化はどのようにつけたらいいのだろう。」</p> <p>→生徒「強調したい言葉、表したいイメージ、前後の言葉のつながり方などから、産字を入れる場所、産字の長さを考え、自分の考えた謡に節記号を使って書こう。」</p> <p>○ グループで謡を考え、各自が節をつくる箇所を分担し、謡を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 謡い文句に手拍子しながら考える。 言葉の抑揚を生かして音高を考える。 産字を生かしてリズムを考える。 節記号を記述する。 謡い方の工夫を書く。 <p>〈生徒の記述より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 出だし ……中音 (明るい雰囲気です謡う。) 終わり ……下音 (最後は低い音にすると、 能らしい雰囲気が出る。) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><指導する知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 節 …音の動き（中音、下音） 七五調、産字 リズム…拍子合（1字1音、囃子の拍子にのる） 八拍子（8拍が一つの単位） 節記号…中、下、直節、二字引き、三字引き </div> <p>◇ 謡をつくるときの約束</p> <p>節（七語調、中音、下音、産字） リズム（拍子合、八拍子） 節記号（中、下、直節、二字引きまたは三字引きを使う。）</p> <p>【観点ア②（創作）評価方法：観察、ワークシート】</p> <p>※評価の視点 謡を創作する場面において、謡い文句や節を考え、自分なりの意見を言い、他者の意見も聞いているか。（観察）</p> <p>※評価の視点 自分の担当した謡い文句にリズムや中音、下音の節を考え、産字を入れて、自分なりの思いや意図を書いているか。（ワークシート）</p>

【ねらい】 謡にふさわしい謡い方を工夫するとともに、謡の節やリズム、速度の特徴を生かしてどのように創作するかについて思いや意図をもつ。

第4時

－音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫－

・ゲストティーチャー（能楽師）による指導、実演。

- 発問 「どのような息づかいで謡を謡うのでしょうか。」 → 生徒 「すごく息を深く吸う。」
- 発問 「どのような声の出し方をしていますか。」 → 生徒 「腹から声が出ている。」
- 発問 「発音の仕方はどうですか。」 → 生徒 「一つ一つの文字を言い直しているように感じる。」
- 発問 「音の高さの変化やつながり方はどうだろう。」 → 生徒 「いきなり下がったりする。」
- 発問 「産字はどのように謡うのだろう。」 → 生徒 「母音を伸ばしている。」

- 節や声の音色を生かした謡い方を知る。
 - ・謡の発声や発音の仕方について
 - ・中音、下音の高さの幅について
 - ・産字の効果について
- 節の特徴や発声を生かした謡い方を工夫する。
 - ・能「羽衣」クセから「春霞棚引きにけり久方の月の桂の花や咲く」の部分で謡う。

＜指導する知識・技能＞
 ・産字の効果…節の変化をなめらかにする
 句と句のつながりを調整する

- ◇ 謡を謡う時の所作として、正座にも取り組ませる。
【観点イ①（歌唱）評価方法：観察】

－生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫－

- ・ホワイトボードを活用した学び合い
 「音はうまくつながるかな。」「産字の特徴を生かして入れ方を考えよう。」「グループで謡う時の中音と下音の高さを決めよう。」「謡う速さを決めよう。」

- 各自で節付けした謡を持ち寄り、グループの謡を工夫して創作し、思いや意図をもつ。
 - ・グループで話し合い、一つの謡につなげる。
 - ・言葉の抑揚を生かせるような音高や産字を工夫する。
 - ・謡いながら互いが持ち寄った節と節のつながり方を工夫する。

- ・ゲストティーチャーの助言を受けながら、節づくりを工夫させる。

音は全部で7つあるんだよ。ここは上音を使ってもいいね。
 ガストティーチャー

この言葉を強調したいのですが中音と下音以外では使えないのですか？
 生徒



〈金剛流シテ方能楽師 工藤 寛氏による指導〉

みんなの謡をつなげる時には、音の高さのつながりも考えた方がいいね。

← 一人で創作した作品
班で創作した作品 ↓

梅雨空に
鹿たちよ

坂道のぼる
鹿たちよ

➡

大陽に 静かなところには 輝く
 金閣寺 蓮の花
 平楽院 水面に 顔だす
 梅雨空に 古都の町並 坂道のぼる
 鹿たちよ

- 本時の学習から、自分はどのように表現したいのか、工夫する点についてワークシートに記入する。

【観点イ②（創作） 評価方法：ワークシート、観察】
 ※評価の視点
 謡を創作する場面において、謡の節やリズム、速度の特徴を生かし、どのように謡を創作するかについて、自分なりの思いや意図をもって創作し、ワークシートに記入しているか。

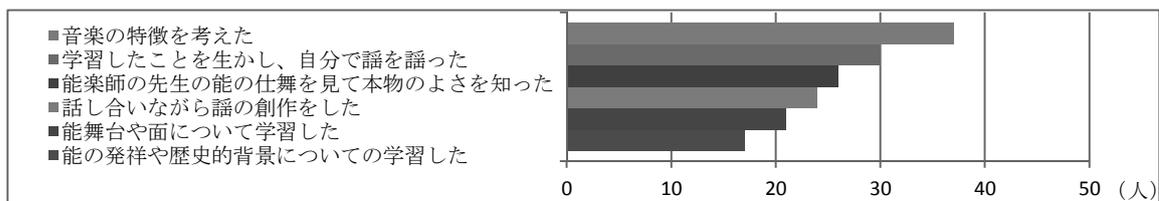
第5時	<p>【ねらい】 節やリズム、速度の特徴を生かした創作をし、謡を謡うために必要な発声を身に付け、表現したいイメージにふさわしい謡をつくって謡う。</p>
	<p>○ 節やリズム、速度の特徴を生かして、グループで謡をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 産字の入れ方、序破急を工夫して謡をつくる。 <p>・つくった謡を、発声の仕方を工夫して謡う。</p> <p>○ つくった謡を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表を聴き、発声の仕方、節の特徴について意見交流をする。
第6時	<p>【ねらい】 能の謡の特徴を物語と関連付けて理解し、自分なりの考えをもって鑑賞する。</p>
	<p>○ DVDで「羽衣」を鑑賞し、学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声の仕方、節、リズム、歴史的背景や能舞台などについて確認する。 自分なりに考える能のよさを紹介文にまとめ、ワークシートに記入する。

9 生徒の変容

事後に行った能に関する意識調査では次のような結果が出ている。

【調査時期：平成26年9月 調査対象：第3学年生徒53名】

- 1 「能のよさ」「能の魅力」について、どのようなことから学ぶことができましたか。（複数回答可）



- 2 「能」について学習をし、「能のよさ」や「能の魅力」とは何だと考えましたか。「能」について学習した内容の用語を使って書きましょう。また、その理由も書きましょう。

生徒A（事前調査の記述：日本に古くからある、伝統的な速さや音色）

→面を付けて人間がその役になりきり、見ている人がのめりこんで、自分なりの解釈ができること。音の動きがゆっくりで、低い声で表現することにより人の心にしみじみと響く力がある。謡は、メロディーなどの変化が大きいけど、だからこそ産字などで気持ちの上下がより引き立つのだと思う。産字によって音高の変化や音の長さなど節が調整されていることも能のよさだ。

生徒B（事前調査の記述：速さがとてもゆっくりであるところ）

→はじめの能の音楽や謡の速さはゆっくりで、自分で物語がどのように進むか想像しながら観ることができ、物語が進んでいくにつれて少しずつ速くなっていき、クライマックスのところは、速さが速くなるので、「最後どうなるのかな」とわくわくしながら観ることができる。

事後調査より、本題材の学習を通して、生徒は能の鑑賞、謡を謡う学習や謡の創作を通して、能の音色や序破急、節や音階などの特徴と関連付けながら、能のよさや魅力を深く捉えることができたことが分かった。

Ⅲ 研究の成果と課題

本研究は、我が国及び諸外国の様々な音楽の学習を通して、生徒が音楽に対する感性を豊かにするために、「生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫」、「生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫」を視点として取り組んだ。

以下に、成果と課題をまとめる。

1 成果

(1) 教材分析表

日本及び諸外国の音楽を指導する際、教材分析表を作成することにより、学習指導要領との関連付けながら、音楽の特徴やよさ、学習のねらいを達成させるために必要な知識や技能等の指導内容を整理し、見通しをもった指導を行うことができた。

(2) 生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうための指導の工夫

①教材提示の工夫

楽器に直接触れたり、ゲストティーチャーから指導を受けたりすることにより、我が国及び諸外国の音楽や楽器の特質や響き、本物の息づかいを感じることができ、学習に対しての関心、意欲を高めることができた。また、生徒一人一人がじっくりと楽器や音楽と向き合う時間を確保することで、楽器の音色の特質や音楽の特徴等を一人一人の感じ方で深く味わいながら捉えることができた。

②比較聴取の工夫

身近な音楽と比較して聴いたり、実際に表現してみたりすることにより、音楽を形づくっている要素の特徴や特質についての共通点や相違点を感じ取ることができ、音楽の多様性に気付くことにつながった。

(3) 生徒が音楽を主体的に捉えるための学習活動の工夫

①学び合いの充実

ペア学習、グループ学習、パート学習等、学習のねらいや生徒の実態に応じて意見交流や学び合いの方法を工夫することにより、効果的に学習のねらいを達成することができた。また、生徒は自分の意見をもった上でグループ学習を行うことにより、自分の意見を伝えることができ、主体的に学習に取り組むことだできた。

②問い掛けの工夫

教師が生徒一人一人に役割を与えたり、問い掛けたりすることにより、生徒は自己の学習課題や目標を見だし、主体的に学習に取り組むことができた。

2 課題

(1) 生徒一人一人が興味、関心をもって日本や諸外国の音や音楽の学習に取り組むために、教材分析と教材研究十分に行い、生徒の身近な音楽との関連や、ゲストティーチャー、実物などの教材を吟味しながら、今後も教材開発に努めていく。

(2) 生徒一人一人が主体的に音楽と関わるためには、グループ活動においてのそれぞれの課題を明確にする必要がある。明確な課題を提示し、個人の成長（成果）と次の課題が実感できるグループ活動の進め方を工夫していく。

平成26年度 教育研究員名簿

中学校・音楽

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
港 区	赤 坂 中 学 校	教 諭	青 葉 朋 信
足 立 区	鹿 浜 中 学 校	主 幹 教 諭	◎ 清 野 淳 子
多 摩 市	多 摩 永 山 中 学 校	主 任 教 諭	原 島 紗 織

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

指導主事

山根 まどか

平成26年度
教育研究員研究報告書

中学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社